



— (宝永四年) 一七〇七 貝原益軒書 —

# 岡田宮

## 岡田宮夏越祭 ごあんない

第55号

平成25年7月吉日  
発行 岡田宮社務所

北九州市八幡西区岡田町1番1号  
郵便番号 806-0033  
電話 (093) 621-1898  
FAX (093) 621-5330  
URL <http://www.okadagu.jp/>  
E-mail [okadajinja@jcom.home.ne.jp](mailto:okadajinja@jcom.home.ne.jp)

### 目次

夏越祭ごあんない	1
総代会研修旅行(下関市彦島他)	2
郷土地名考 <sup>55</sup>	3
神社なぜなぜ問答 <sup>55</sup>	3
七五三	4
巫女奉仕者募集	4

平成二十五年七月二十九日(月) 午後六時~九時  
(雨天決行)

社頭に設けた茅の輪をくぐれば、悪疫を免れ幸福と繁栄を招来するという古式に則った夏越祭を厳修いたします。

大祓神事 午後六時より

どなたでも参加できます。

参列の方には大祓詞をさしあげます。

ふるってご参加ください。

当日ご参拝の方に

■「お札」と「茅」を授与いたします。

魔除けとして玄関に奉斎して下さい。

■無病息災・除災招福御神酒接待

ご参拝の方に御神酒をご奉仕いたします。

■かき氷一〇〇円

地元青年会の屋台がたちます。

かりとり  
**無料券**



当日この券をご持参ください  
かき氷が無料になります。

総代会研修旅行より

春の彦島と

川棚、東行庵めぐり

岡田宮 巫女 大島 千尋

平成二十五年三月八日の総代会研修旅行は下関の旅でした。当日は八時三十分には神社を出発。先ずは下関の唐戸市場へ行きました。市場ではたくさんのお魚が並び、また新鮮な魚介の味を楽しめるコーナーもあつて大変な賑わいでした。私も関門海峡の綺麗な海を望みながらお寿司を頂き、目もお腹も満喫できた一時でした。

唐戸市場で楽しんだ後は、彦島八幡宮での正式参拝です。彦島八幡宮はその名の通り、下関の彦島の氏神様で、とても手入れの行き届いた素敵な雰囲気の内でした。正式参拝を終えると、彦島八幡宮の柴田宮司様より神社の御造営についてお話を頂きました。彦島八幡宮も近年御造営事業を行つておられ、岡田宮も氏子崇敬者の方々と団結して今回の御造営を進めて行きたいと話が弾みました。

彦島八幡宮を後にすると、次に昼食の場所である「お多福」に向かい、名物の瓦そばを味わいました。瓦そばはパリパリとした食感でとても美味しく、また店外のバルコニーには梅が咲いており綺麗な景色を見ながら楽しい時間を過ごしました。

昼食後は川棚の大楠を見に行きました。大楠の間近までは車の乗り入れが出来なかつたので、

少し離れた駐車場でバスを降り、皆で元気に歩きました。大楠までの道にはつくしが生えていたり、ピンクや白色の梅が咲いていたり、日向ぼっこ中のねこちゃんを見ついたり、楽しい発見の連続でした。そんな楽しい道を通り抜けてついに大楠に到着。大楠は本当にとっても大きくて、すごい迫力があり、たくさんさんのパワーを貰えました。

大楠からパワーを貰った後に向かったのは東行庵です。東行庵は幕末に活躍した維新の志士である高杉晋作ゆかりの地で、梅の名所でもあります。当日はちょうど梅の見頃という事もあつてとても綺麗な梅の花が咲き誇っていました。このほか、晋作の資料館やお墓があり、資料館では「雷電風雨の如き」と形容される晋作の生涯について深く学ぶことが出来、また晋作のお墓の隣には、晋作の後輩である伊藤博文の筆による顕彰碑が建ち、晋作の一生に思いを馳せる事が出来ました。

東行庵を後にして最後に私達が向かった場所は下関の有名な練り物のお店「村田蒲鉾店」です。とても美味しい練り物店で、総代の皆さんはこちらで今回の旅のお土産をたくさん購入されています。

お店のお姉さんたちの元気な笑顔に見送られた私達は黒崎への帰路を進み、無事に岡田宮へ帰ってくる事が出来ました。

今回の総代研修旅行も好天に恵まれ、とても有意義な研修旅行が出来ました。特にお忙しい中にも関わらず、厚くおもてなし頂いた彦島八幡宮の皆様には心より感謝を申し上げます。



柴田宮司様



彦島八幡宮



記念撮影



東行庵



梅林



川棚の大楠



瓦そば



唐戸市場



高杉晋作像

## 郷土地名考 55

## 中井 (なかい)

合成地名や願望地名は、字面だけで判断すると誤解を生み易い。小倉北区足原は一八八七(明治二〇)年大島、足立、黒原、熊本を合併、戸数の多い足立、黒原から一字づつ取って足原とした。芦の繁った原だったからアシハラというのもあるがそうではない。

中井も合成地名、同じ年に中原村と井堀村が合併して新村になった。中原は企救郡誌に「西は筑前国に境し両国俱に此地名在り。按ずるに両国の中の原と云う事なるべし」としている。

五市合併後、住居表示が行われるまで小倉側にも戸畑側にも中原があった。住居表示以後、中原は戸畑区だけになり、中井は小倉北区と区分けされた。井堀は水利の便が悪く井戸を掘ったからと、これは字義通りの解釈になっている。

戦前まで中井、中原の鹿児島本線北側は松原の続く海水浴場だった。キンツリに海水豆をぶら下げて泳いだものだが、もはや跡形もない工場地帯。六九年、産業廃棄物の大気汚染による中原ゼンソクに抗議する住民運動が起こった。

神社  
なぜ  
問答

(その55)

## 占いやおみくじの

## 起源について

## 教えてください。

神慮を伺う占いの起源は、古代にまで遡ることができ、その一つに亀の甲羅を火で炙り(あぶり)、そのひび割れかたを以て占う亀卜(きぼく)があります。律令制下においては、神事を司る神祇官(じんぎかん)の中で亀卜に熟達した卜部(うらべ)が官職として置かれたり、現在でも大嘗祭(だいじょうさい)で斎田(さいでん)を選ぶ、国郡卜定(こくぐんぼくじょう)に際しておこなわれています。

また、人の正悪・是非を判断するため、熱湯に手を入れて神意を伺う盟神探湯(めいじんたんとう)が(たち)は、今も神社でおこなわれている湯立神事の元であるともいわれているように、占いは神事と密接な関係があります。

おみくじは、こうした占いの一つであり、吉凶禍福・勝敗・当落・順番を占い、物事を選定する方法として広く用いられます。例えば、氏子の中から一定期間、神社で奉仕をおこなう頭屋(とうや)を選ぶ際に、神前でくじを取って、神慮に適った神役を選ぶことなど、神事とも深い関わりが見られます。

その起源は古く、『日本書紀』斉明天皇四年の条には、有間皇子が短籍(ひねりぶみ)を取って、謀反の吉凶を占ったとあり、紙片か木簡で作ったくじにより占いをおこなったことが窺えます。このほか、特に神前でおこなわれた事例は、『増鏡』(ますかがみ)三神山の条で、仁治三年(一一四二)の四条天皇崩御の際、執権北条泰時が鶴岡八幡宮若宮社でくじを取り、後継の天子を定めたことが記されています。

語源も、くじの形態から「串」であるとする説や、訴訟や採め事などを公正に判断するという「公事」から付いたとする諸説が見られ、漢字も「籤」という字のほか、亀卜を起源とする説から「鬮」という字が当てられたり、「孔子」という字も用いられたりしました。

現在、神社におかれているおみくじは、個人の運勢を占うことが中心であり、今のような形のものが見られるようになったのは江戸時代に入ってからといわれています。神社によつて、御祭神が詠んだ和歌を載せたりするなど特色のあるおみくじが置かれ、人々の篤い信仰を集めています。

しかし、中には江戸時代に庶民の間で流行し、くじに当たった者に賞金を出す富くじをまねた景品付きのおみくじを置く社寺もあるようですが、いたずらに人々の射倖(しゃこう)心を煽るばかりで、本来の信仰の在り方に結び付いたものとはいえません。

# 七五三

七五三祭は、子供の成長にともない節目々々に神社にお参りして、いつそうの息災成長を祈る行事です。

三歳の**男子女子**の祝いを髪置、五歳の**男子**の祝いを袴着、七歳の**女子**の祝いを帯解きなどと称しますが、これらの名称や、その年齢は地方により、時代によつて必ずしも一定しません。ともあれ、七五三は江戸時代から、広く行われた行事で岡田宮では、十一月十五日を当日とし、その前後を通じてにぎやかなお参りが行われます。

なお、平成二十五年の七五三の年齢は、左記のとおりですので、ご家族おそいでお参り下さい。

## 記

- 三歳 平成二十三年生 (かぞえ齢) 平成二十二年生 (満年齢)
- 五歳 平成二十一年生 (かぞえ齢) 平成二十年生 (満年齢)
- 七歳 平成十九年生 (かぞえ齢) 平成十八年生 (満年齢)

※年齢はかぞえ年でも、満年齢でもかまいません。  
※毎日午前九時より午後四時半まで受付をしています。



# 正月巫女奉仕者募集

大神様のお側近くで巫女として仕え、結婚式やお神礼やお守りをお授けする女性奉仕者を募集しています。神様に仕える重要なお務めであり、貴重な体験になるかと思えます。

ご希望の方は神社社務所  
電話 (621) 一八九八  
までお問い合わせ下さい。

奉仕資格 高校生以上

未婚の方

※書類審査・面接が有ります。



できれば髪の長い方希望  
茶髪不可(程度によります)



スタジオカラーズ  
STUDIO COLORS  
produced by 写真写真館

北九州市八幡西区岡田町1-44  
TEL 093-621-2080

■営業時間 10:00~17:00  
■定休日 水曜日

撮影衣装・着付・ヘアメイク無料

¥10,500~

(四切1枚・台紙付)

七五三お出かけレンタル衣装

¥3,150~ (お一人様)

新作ブランド衣装など多数取り揃えております